

〈第7部番外編：付録〉

番外編5. 「青春」

〈日本語訳〉

青春

青春とは、人生のある時間のことではなく、心の状態のことである。薔薇色の頬、紅い唇、しなやかに折れ曲がる膝の問題なのではなく、強い意志、想像力の質、情熱の力の問題なのだ。青春とは湧き出る深い生命の泉のみずみずしさのことなのである。

青春とは、易きに流れたいとする心乗り越える冒険心、冒険を求める欲求に臆病になってしまうことに打ち克つ勇気がいつも溢れていることを意味するのだ。^(訳者注)青春はしばしば二十歳の少年よりも六十歳の人の中に存在する。単に多くの歳月を重ねただけでは人は老いない。我々は理想をなくした時、はじめて老いるのである。

歳月は確かに肌に皺を刻むかもしれないが、情熱をあきらめてなくしてしまうと、魂に皺を刻んでしまうのである。不安、恐れ、自己不信は心を屈服させ、精神を塵と化してしまう。

六十歳であれ十六歳であれ、あらゆる人の心には、驚異なるものに対する魅惑の心、未知なるものに対する子供のような尽きない探究心、人生というゲームが持つ喜びが存在している。あなたの心にも私の心にもその中心には無線電信通信局が存在する。すなわち、心の無線電信通信局が、人々やそして神から、美、希望、激励、勇気、そして力を受け取る限り、それだけ長くあなたは若くあり続けるのだ。

心のアンテナが衰え、あなたの精神が皮肉の雪と悲観の氷に覆われた時、たとえ二十歳であろうとも、人は老いるのである。しかし、あなたの心のアンテナを高く保ち、楽観の波をとらえるならば、あなたは八十歳にしても若く死を迎える希望があるのである。

(野村忠央訳)

〈訳者注〉

もし第2連第1文のコンマの位置が **appetite** の後ではなく、**timidity** の後ろにあると仮定すれば、訳語は以下のよう。(なお、「気質的に優勢であること」を「いつも溢れていること」と意識した。)

青春とは、臆病になってしまうことに打ち克つ勇気、易きに流れたいとする心乗り越えるような冒険を求める欲求がいつも溢れていることを意味するのだ。

〈参 考〉

解題にも記したように、わが国でよく知られている「青春」は **The Reader's Digest** (1945年12月号)に“**How to Stay Young**”というタイトルで掲載されたものである。結婚式などのスピーチでしばしば引用される有名な「青春」日本語訳はその岡田義夫訳である。

なお、本課で取り上げたウルマンの原文の日本語訳としては宇野収・作山宗久訳がよく知られていると思われるが、上記の日本語訳はなるべく直訳を心がけて訳したものである。

リーダーズダイジェスト版「青春」の英語原文やその岡田義夫訳も、本課原文の宇野収・作山宗久訳も簡単にインターネットで検索できるので、興味を持った学生さんはぜひ調べて、その違いなどを味わって欲しい。